

ぐりーんず greens

第29号

2021.6 発行

理念：地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

基本方針

- ・ 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・ 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・ つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・ 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・ 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



病院長ご挨拶



まずは、八千代医療センターの運営について、日頃からひとかたならぬ御支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和2年度はCOVID19という、いままでわれわれが経験したことがない病禍に対応しなければならぬことから始まりました。この病禍は、医療だけではなく、経済や精神面でも、さまざまな大打撃を全世界中の人々に与えております。これによって、社会構造の変革も余儀なくされております。

こうした大混乱のなかで、東京女子医大のニュースが偏って報道され、皆様方に御心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

当センターもコロナ対策teamを作り、患者さんや医療従事者が、コロナ陽性患者とcrossして院内感染が起こらないように厳重な注意を払い、救急医療をはじめとする日常診療に影響がでないように細心の注意を払っておりました。しかし、令和3年3月に重症者の多い病棟で発生した院内感染から、十数名の感染者を出すに至りました。救急外来、コロナ患者の受け入れ中止や一般入院を一時止め、さらなる厳重な感染症対策を行った結果、速やかに感染は収束いたしました。その後、4月には救急外来の再開、コロナ患者の受け入れを含めたほぼ通常の診療体制に戻ることができました。また、ワクチンの接種も順調に進み、院内の医療従事者は、パートナー企業の方々も含めてほぼ100%の方に2度の接種を完了することができました。その結果、3月の院内発生以降、2か月間院内での感染者を1例も出しておりません。この期間、外来や入院などに関して、多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

現在、市内の医療従事者の方々のワクチン接種を行っております。この事業も6月一杯でほぼ完遂する予定です。オリンピック・パラリンピック競技会の協力も求められております。従来の医療提供体制と異なったことをspeedyに行わなければならない厳しい状況になっております。

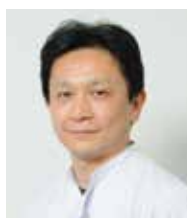
皆様方には、この大混乱の中で御迷惑をお掛けすると思っておりますが、この辺の事情を御推察いただき、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご健勝を心より祈念いたします。

令和3年6月
東京女子医科大学附属八千代医療センター
病院長 新井田 達雄

消化器内科科長就任のご挨拶

科長・教授 新井 誠人



本年4月に消化器内科科長を拝命しました新井誠人と申します。北陸の富山県出身で、平成7年に千葉大学卒業後、千葉大学第一内科（現：消化器内科）に入局し、25年以上にわたり消化器内科医としての研鑽を積んできました。消化器疾患を幅広く診療いたしますが、特に、消化器の悪性腫瘍、消化管疾患、肝炎、肝不全といった領域を専門としております。

私が研修医だったころは、消化器内科の病棟は、B型やC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変といった患者さんが非常に多くみられました。肝炎ウイルスに対する画期的な薬剤の登場により、これらの患者さんは激減しました。一方で、超高齢化社会となり、悪性腫瘍に罹患される方が増えてきています。二人に一人はがんに罹患するとも言われており、早期発見、早期治療が非常に重要です。当科では、内視鏡による消化管の早期がん治療も積極的に行っています。残念ながら進行がんとなった場合も、抗がん薬の進歩は目覚ましいものがありますので、これらをどう活用していくかをみなさまと一緒に考えていきます。また、炎症性腸疾患、胃食道逆流症、機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群といった悪性疾患ではないけれども治療に難渋する疾患も増えてきています。これらの診療のために、当科は胃カメラ、大腸カメラ、エコー検査など多くの検査を行います。残念ながら楽しい検査とは言えませんので、不要不急な検査はなるべく回避し、また検査による苦痛や不快感を軽減するために様々な工夫を行っております。以前の検査で非常に大変な思いをしたとか、検査に不安に感じられているときは、担当医にお伝えください。

正しい診断、治療を導き出すために、内科医は診療中いろいろなことを考えています。現代医療では、血液検査や画像検査の所見を重視しますが、診断や治療が難しい疾患では、患者さんの何気ない一言が、重要な手がかりなることがあります。「病気とは関係ないと思うけど、、、」で始まる患者さんのお話しが、その後の診断や治療に役立つことがあります。皆様を感じられていること、考えていること、心配なこと、なんでもまずはお伝えください。たくさん情報から、正しい答えを導き出すことが我々内科医の仕事です。

4月から私を含めて4人の消化器内科医が新たに八千代医療センターに着任し、当科のメンバーが大きく変わりましたが、これまでの診療をきちんと継続していきますのでご心配には及びません。“八千代医療センターに来てよかった、安心できた”とみなさまに思っていたいただけるような質の高い医療を目指して、頑張っていきたいと思っております。



母体胎児科科長就任のご挨拶

科長・教授 小川 正樹



令和3年2月より当院に赴任致しました小川正樹でございます。

今後千葉県での診療を行うにあたりまして、皆様にご挨拶申し上げます。

私は、秋田県出身でありまして、横手高校から平成3年に秋田大学を卒業し、同大産婦人科学講座に入局し、平成21年より母子センター准教授として産婦人科診療に携わって参りました。平成23年12月に縁あって東京女子医科大学に移動し、平成29年より母子総合医療センター母体胎児医学科教授として産科臨床を担当致しました。産科診療全般に対応させて頂いて参りました。

専門としては周産期医療となります。出生前診断、胎児治療、早産管理、合併症妊娠管理を主に対応させて頂いておりました。ライフワークとして子宮頸管熟化を扱っておりますので、分娩を如何にコントロールするかについて臨床に還元している状況でございます。早産研究の一環として、University of PennsylvaniaのJerome F Strauss博士のもとで破水の機序についてTranslational Researchを進めて参りました。これが現在の臨床に大きく貢献しております。

この度急な配置転換にともない八千代医療センターに赴任致しましたが、多くの素晴らしいスタッフに恵まれ、十分な産婦人科医療を展開できること嬉しく思っております。

八千代医療センター母体胎児科は言うまでもなく総合周産期母子医療センターでありまして、東葛南部を代表する病院です。現在千葉県では年間に出産される約4万名の妊婦がありますが、その約1割は合併症を有する、または早産・新生児管理が必要とされるハイリスク妊娠であり、総合周産期母子医療センターが対応すべき妊婦となります。このハイリスク妊娠を当院のような周産期センターが担うべきものと思います。また今後も継続して取り組みたいと思っております。また近年妊婦の1/4を占める高齢妊娠また精神疾患を合併するような特定妊婦についても総合周産期母子医療センターが担って行くべきものと考えております。今後この分野をカバーできるような体制を構築するように努めて参ります。

もとより産科医療はエビデンスに乏しいと言われ、現在ではガイドラインに基づく標準的な診療が大勢を占めております。このような中で、行われることが少なくなってきた、帝王切開術後の経膈分娩、骨盤位外回転術、妊娠第2三半期の子宮頸管縫縮術、子宮筋腫核出併施の帝王切開術なども症例に応じて適応されるべきと思っておりますので、少しずつ実施していきたいと思っております。一方で、遺伝子診断技術の進歩により臨床に応用されつつある遺伝子パネル検査、胎児父の高年齢（advanced paternal age）に伴う児の疾患等の遺伝カウンセリングなど先進的な医療についても拡大していく予定でおります。先端的な医療が身近に実施できるように致しますので、よろしくお願い致します。

当センターは開設より10年が経過し、多くの医療機器の更新時期を迎えております。したがって今後は医療機器の入れ替えを順次行い、先端的な医療を今後の数年間で実施できるようにすべく努めて参ります。また、引き続き皆様とより良い医療連携ができるように注力致します。当院の母子総合医療センターを今後ともよろしくお願い申し上げます。ご不明の点またご相談などございましたら、当方にご連絡頂ければ対応させていただきますので、ご遠慮なくご連絡頂けますと幸甚に存じます。



ディベロップメンタルケアの取り組み ～赤ちゃんの声の代弁者として～

NICU看護師 小嶋 久子

当院では、赤ちゃん和家人を第一に考え、ディベロップメンタルケアの取り組みをしています。赤ちゃんに優しい看護、家族と協力し合う看護や医療を提供したいという思いから、約3年間のNIDCAP（ニドキャップ）トレーニングを受講しました。そして、2020年12月にNIDCAPプロフェッショナルの認定をいただきました。

まず初めに、NIDCAPとはNewborn Individualized Developmental Care & Assessment Programの略で、赤ちゃんの個々の発達に合わせたケアと評価プログラムです。早産で生まれた赤ちゃんは、NICU・GCUの人工的・機械的な環境や、処置やケアなどの刺激を受けます。成長過程の脳は、その刺激がストレスとなり、成長発達に影響を及ぼすことがわかっています。NIDCAPは1982年に開発され、すでに世界各国では赤ちゃんの成長・発達に多くの効果を挙げています。現在、NIDCAP国際連盟にはNIDCAPトレーニングセンターが、全世界25か所（米国7、欧州14、南米、カナダ、オーストラリア、イスラエル）にあり、専門職者へのNIDCAP教育を実施しています。そして、日本では2009年にNIDCAP研修が開始となり、2011年に第1期生NIDCAPプロフェッショナルが誕生しました。現在、日本には9施設20名のNIDCAPプロフェッショナルがいます。また、日本にもJapan NIDCAP National Training Centerを設立するための準備をしており、すべて日本語によるNIDCAPプロフェッショナルの養成トレーニングが可能になる予定です。

NICU・GCUでは、できるだけ胎内の環境に近づけるための環境調整をする必要があります。NIDCAPでは、ケアの前・中・後の赤ちゃんの行動を観察します。成長過程の赤ちゃんの行動（声）を読み取り、赤ちゃんの環境に適応しようとする強みを活かし、成長・発達をより促すために赤ちゃん一人ひとりに合わせた環境とケアプランを検討していきます。そして、何よりも赤ちゃんの成長に一番大切な家族とその検討したケアプランの内容を共有し、一緒に成長・発達を支援できるよう協働していきます。

1年目のトレーニングでは、赤ちゃんの反応の多さに驚きました。そして、赤ちゃんを観察していて、「赤ちゃんが初めから全部一人でできているわけではない、サポートを受けたり、成長発達をしているからできるようになってきた」と視点が変わりました。そして2年目には、一人の赤ちゃんを入院から2週間ごとに観察する継続症例の課題がありました。その課題を開始した時にCOVID19による面会制限が生じました。NICU・GCUでも両親のみの面会となり、面会時間と回数も制限が生じました。当初は面会時間が短くなったことで、家族と赤ちゃんの関りの中で、今までやっていたことが出来なくなったことに目を向けていて、制限のある中でも出来ることに目を向けることができませんでした。観察の度に、家族にどんなケアの示唆ができるか考えました。NIDCAPを通して家族からは、①小さな変化も成長として実感できた②より良いケアのポイントや改善点を適切なタイミングでアドバイスがもらえた③いつでも相談でき、不安を抱えることないよう配慮してもらった④子どもに対して、より良いケアをしてあげられているという実感と自信を持てるような支援をもらった、と研修評価を頂きました。研修を通して、NIDCAPの理念である赤ちゃん和家人の関りを一番に考え、提言していくことの大切さを、身をもって学ぶことができました。

NIDCAPプロフェッショナルとして、当院では2021年1月から活動を開始します。家族と赤ちゃんの絆と心を育む関り、そして成長発達を促す関わりができるよう取り組んで参ります。

日本ディベロップメンタルケア研究会HP
<http://japan-dcra.jp/>
 NIDCAP国際連盟HP
<http://nidcap.org>



お知らせ

ご紹介の際は、紹介状（診療情報提供書）をご用意頂き、事前のご予約をお願い致します。

医療機関からの診察・検査連携のご予約（地域連携直通）

TEL 047-458-6543 FAX 047-458-6545

受付時間 平日 9:00~17:00・土曜日 9:00~13:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30~1/4)はお取扱しておりません。

※時間外の場合はFAXを送信して下さい。翌受付時間内にご連絡させて頂きます。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。



医療連携マネージャー（医師）

緊急を要する当日（日中）のご紹介は、紹介診療科が定まっている場合は従来通り当該診療科の医師が対応します。

担当診療科の特定がしにくい場合は、「医療連携マネージャー」が電話対応をさせて頂きます。

ご対応は地域連携直通電話の受付時間内とさせて頂きます。

患者さんからの診察のご予約（予約センター）

TEL 047-458-6600

受付時間 平日 9:00~16:00・土曜日 9:00~12:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30~1/4)はお取扱しておりません。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。

やちよ夜間小児急病センター（中学3年生までの小児対象）

TEL 047-458-6090

受付時間 毎日 18:00~23:00

医療相談は行っておりません。ご予約の必要はありません。受付時間内に直接ご来院下さい。

検査連携（医療機関から申込）

検査連携のご依頼は地域連携直通電話の受付時間内とさせて頂きます。

応需検査：CT、MRI（単純）、RI、XP、マンモグラフィー、骨密度測定、セファロの画像検査



東京女子医科大学

八千代医療センター

TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY YACHIYO MEDICAL CENTER

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477-96

TEL 047-450-6000(代表)

TEL 047-458-6545

入退院支援室 TEL 047-458-6543(直通)